

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500767
法人名	有限会社 オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか
所在地	伊予郡砥部町高市1318番地
自己評価作成日	平成22年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 3 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた事業所の環境を活かし、四季の移り変わりを肌で感じながら、家庭の延長として生活しながらひとりひとりの思いを大切に、自立を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた中に建つホームは家庭的な雰囲気のもと、ホーム長、管理者、職員全員で利用者の日々の生活を支えている。ホーム長が地元出身者であり、地域との交流は開設当初から積極的で、地域行事に参加したり、ホーム行事に地域の方を招いて共に楽しんでいる。職員は、利用者の得意な分野を日々の生活に活かせるよう個別に支援している。食事は利用者の楽しみのひとつで、ホーム脇の畑で取れた新鮮な野菜を使い、準備や後片付けなども協力して行っている。全員で道の駅等にドライブに出かけたり、外食を楽しむこともある。医療機関への受診はホームの看護師が同行し、家族に報告している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名 大平 真里子

評価完了日

平成22年2月12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 独自の運営理念を作り、職員が意識して取り組めるように、見えやすい場所に掲示している。ミーティング等を利用して実践に向けて話し合うようにしている。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念を大切にしている。居間の見やすい場所に掲示し、新しい職員が入るたびに説明して、一人ひとりが意識するようにしているが、管理者と職員が理念について会議等で改めて話し合う機会は少ない。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事や老人会に参加したり、ホームでの行事に地域の方をご招待してホームについて知っていただくよう交流をしている。</p> <p>(外部評価) ホーム長が地元の出身であるため地域の情報は得やすく、地域との交流は開設当初から積極的である。地域の祭りや老人会に参加したり、小学校の行事(運動会等)を見に行ったりしている。また、ホーム主催のクリスマス会にはボランティアをお願いしたり、地域の方にも参加して楽しんでもらっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会等を活かして認知症についての勉強会を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス内容やサービス評価について実施後に報告して意見を基に話し合いを行っている。	
			(外部評価) 会議の案内は家族や地域住民等、多方面に送っている。以前は家族の参加がなかったが、家族にアンケートを取って希望等を把握することで、家族の参加も得られるようになっている。ホームの活動状況を報告したり、その時々的事项を取り上げたり、質疑応答をしている。参加していない職員に対しての詳しい報告はしていない。	参加していない職員とも会議の内容を共有できるよう、会議録をより詳細に記録して回覧し、職員の意見を聞くなどしてさらにホームの質の向上に繋げていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や、介護相談員の派遣等の機会を利用して関係作りをしている。	
			(外部評価) 町の担当者に運営推進会議に参加してもらうとともに、普段からわからないこと等について質問や相談をしており、連携は取れている。介護相談員の受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に研修を行うことで正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) ホームとして身体拘束はしない方針で、職員もそのことを十分理解したうえで実践している。玄関及び勝手口も鍵はかけられておらず、利用者は自由に出入りできるようになっている。利用者が外出していたことを近所の方が知らせてくれたこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についてミーティングや研修などで話し合う機会を持ち、利用者への配慮に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要に応じてその都度対処している。外部の研修などに参加し知識の向上に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、利用者や家族等の意見や要望を聞き、不安なく入所していただけるように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に、苦情に関する説明を行い、当ホーム内の苦情受付窓口や行政機関等の苦情受付の案内を行っている。苦情があればその都度、ホーム長が対応することになっている。  (外部評価) 家族会はないが、家族の訪問時や介護計画の確認時等に意見を聞くよう心がけている。また、運営推進会議に参加している家族にも聞いているが、ホームに対しての意見や要望は多くない。	運営推進会議の案内は全家族に送っており、会議では直接言えないことや、参加できない場合もあるので、ホームの質の向上のためにも意見を聞く欄等を設けて自由に書いてもらう等の工夫を望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で職員の意見を聞く機会を設けている。  (外部評価) 管理者はミーティング等で職員の意見を聞いたり、日頃から気軽に話せる関係づくりを心がけている。出された意見はホーム長に伝え、ホーム長も時間があればホームを訪問して職員と話をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り職員の勤務希望を取り入れてシフトを組むようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 積極的に研修への参加を進めている。勤務と研修が両立できるように配慮してシフトを組んでいる。ホーム内でも定期的に研修の機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 全国や県のグループホーム協会に加入し、研修などに参加しやすい状況を作っている。職員は、研修に参加することで交流し、意見交換などを行っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から本人や家族等から本人の思いや要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族等の思いや要望について聞くようにしている。入居後も家族からの要望があればその都度対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の意向を聴き、必要としている支援を見極め、他のサービス利用もできるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活の中で、一緒に料理やレクリエーションなど行い、自然な会話の中から利用者の思いを見極めながら、関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの行事の案内をしたり、毎月の様子について連絡し関係づくりを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションの中で利用者の思いを感じ取るようにし、必要に応じて家族に伝え協力していただく。馴染みのある季節の行事などを行っている。  (外部評価) 家族だけでなく、利用者の友人・知人の訪問もある。本人の希望で馴染みの場所に出かけたり、馴染みの散髪屋に行くこともある。利用者に地元の人はいないが、ホームの周囲を散歩する際に挨拶を交わし、新しい馴染みの関係をつくるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事作りや洗濯たたみなどを一緒にすることで利用者同士の会話も日常的に見られる。職員は、見守りながら関係が悪化することないように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、必要に応じて対応している。本人や利用者からも相談しやすいように配慮している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の言動などから希望や要望を感じ取るよう気を配り、可能な限り尊重している。  (外部評価) はっきりと希望や思いを伝えてくれる場合もあるが、利用者によっては相性のいい職員には話すことも多くあり、聞いた職員が全職員に伝え、共有するようにしている。また、思いや意向の把握が困難な利用者については、行動や表情等からも把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の日常会話や家族にご協力いただき把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員が本人の状態を総合的に把握し、変化に対応できるように努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の状況についての担当者会議を開いて、その都度職員で話し合い、介護計画に反映させている。家族の要望も聞き、介護計画に取り入れている。	
			(外部評価) 利用者及び家族の希望、職員の気づきや意見を取り入れて話し合い、利用者ごとに合うよう個別の計画を作成している。初めて計画を立てる場合は家族に直接聞いているが、それ以降は計画についての意見や要望等は家族の記入欄を設けて書き込んでもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りノートを利用して、職員間での情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 病院の診察日を利用して、入院中の妻や家族との面会を通じて、家族との絆を深めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で協力していただけるような関係を築いている。定期的に介護相談員による慰問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 希望があれば、入居前からのかかりつけ医に受診する ように配慮している。医療機関を変更したり、予定外 の受診などは家族に相談し対処している。  (外部評価) 協力医療機関をかかりつけ医としている利用者もいる が、利用者及び家族が入居以前からのかかりつけ医を 希望する場合は、継続して受診できるよう支援してい る。受診には看護師が同行するため、状態の把握はで きており、受診の内容は家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者との関わりの中で得た情報や気づいた事があれ ば、その都度看護師に相談して支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は、家族や医療機関との連絡をこまめに取 り、情報の交換や利用者の症状の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意志を確認し、希望があればその都度対 処できるようにしている。  (外部評価) 看取りの経験はまだないが、ホームでの看取りが可能 な状況であれば受け入れ可能としている。入居時に本 人及び家族に医療連携体制について説明を行い、状況 の変化に応じて家族やかかりつけ医、職員と話し合い をもち、方針を共有している。	利用者が重度化や終末期を迎える場合、利用者一人ひ とりに個別の対応が必要であり、段階に応じた支援も 求められるため、職員の研修を継続して行うことが望 まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応の仕方についてはマニュアル化し、実践している。講習会や研修などにも参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力による訓練を実施し、安全な避難や誘導ができるようにしている。  (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。地域の協力を得るために、地域の自主防災組織について確認し、協力をお願いしていく予定である。夜勤は1人体制であるが、通勤が不便な職員がホームの隣に宿泊している場合もあり、協力が得られることもある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけや介助時には、言葉づかいや声の大きさ等、その時の状況に応じて対応できるように配慮している。  (外部評価) 利用者に声をかけるときにはあだ名等は使わず、一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いをするよう気をつけている。職員と利用者の会話は自然であり、ホーム内は明るく楽しい雰囲気がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いが伝わりにくい時は、分かるまで根気よく様々な表現方法で意思の疎通をはかり、納得してすごせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースを大切にし、可能な限りで、その時々 の希望を優先しながら生活できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ひげ剃りは入浴後、本人が行う。理容・美容について は、職員が対応している。利用者自身で洋服を選んで 着替えしていただいている。職員は見守り、好みなど を把握するようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りから片付けまで、利用者がそれぞれに関わる ことで、食事への関心を持つことができるようにして いる。  (外部評価) 食事は利用者の楽しみのひとつで、ホーム脇の畑で育 つ新鮮な野菜を使っている。食材を切ったり後片付け をする等、それぞれが自分のできることをしている。 また、食事はリハビリを兼ねて利用者が各自でお膳を 取りに行くようにしている。季節に応じて干し柿や切 干大根等も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状態に応じて食事の量や献立を考えてい る。食事の中でも水分を摂取できるように汁物を必ず つけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が声かけし、一人ひとりに応じた口腔ケ アの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンや習慣を把握し、失敗なく気持ちよく排泄できるように声かけ、誘導により自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して支援している。ほとんどの利用者に対してトイレ誘導を行っているが、夜間は利用者の状態に応じて、パッド等に対応することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に気を配り、毎食前の運動や散歩など、日常生活の中で工夫している。アロエジュースを活用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は決まっているが、声かけのタイミングに気を配り気分よく入っていただくようにしている。	
			(外部評価) 週3回(冬場は週2回)の入浴を基本としており、職員の勤務体制が充実している日を入浴日としている。順番は利用者の希望やタイミングによって変更している。入浴を拒む場合は、時間をおいたり、声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 暑さや寒さにも配慮して安心して眠りやすい環境を提供している。朝食後、昼食後は自室で休まれる方もあり、利用者のペースで過されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報で確認して支援している。分からない時は、その都度看護師に確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って可能な範囲で支援している。畑仕事、料理の下ごしらえ等、それぞれの力を活かした支援をすることで利用者の喜びになるように対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や季節の催し物など、定期的に外出の支援をしている。ボランティアの方に協力していただくこともある。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩したり、畑の収穫を楽しんだり、ウッドデッキでお茶を飲んだり、希望に応じて買い物等に出かけている。また、全員で日帰りのドライブ（道の駅等）に出かけたり、外食を楽しむこともある。夏には町内の盆踊り大会に声をかけてもらって参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は、お金を所持したり使えるような支援はしていないが、外出時に食事の材料を一緒に買い物することはある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの手紙は本人に渡して読んでいただいたり、希望があれば、返事を書けるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に合わせた花を飾ったり、利用者の作品を壁に飾って季節感を採り入れている。	
			(外部評価) 居間のテーブルには花が置かれ、壁には利用者の手作りの物や季節の物が飾られている。ピアノも置かれており、訪問調査時には幼稚園の先生だった利用者に得意の曲を弾いてもらった。利用者は、自分のお気に入りの場所で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになりたい時には、居室で過ごされている。リビングでは、気の合う利用者同士で過ごせるような席の配置にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前から使用していた馴染みのある物を持って来ていただくようにしている。本人が作った工作などを飾られている。	
			(外部評価) 居室内にはホームが準備しているベッドや家具等のほかに、利用者の馴染みの物が家庭から持ち込まれている。壁の飾り付けも本人に合わせており、個性がある。各居室に年間のカレンダーを貼っており、受診や入浴、健康状態などを記載して全職員で把握している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりを設置し、利用者が安全に移動できるようにしている。	